

一世豊竹古鞆大夫床年譜 (二)

年次

劇場並に狂言

古鞆大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

五月

竹本播磨大夫一座

父を養ふ爲め東京へ同行せしが二ヶ月を経ざる内に姉の許へ戻す。

八月十四日、竹本路大夫（石川彦三郎）歿す。法名釋折淨行年五十三、二世竹本越路大夫高弟、初め九大夫と稱し後路大夫と改名す。

明治卅一年（廿一歳）

病氣に罹る。書籍店主鹿野安兵衛氏（俳名文舍、書籍店主鹿野安兵衛氏と改む）の世話になる。

四月一日、二世豊澤團平（加古仁兵衛、通稱清水町師匠）歿す。法名大達。十月廿四日、竹本久大夫（巴丑松）歿す。初め豊澤釋昇道信士、行年四十六。初め豊澤龍糸と名乗る三味線弾なりしが途中小大夫に業を替ふ。

明治卅二年（廿二歳）

竹本文大夫東上し播磨大夫一座に加

明治卅三年（廿三歳）

六月十七日

歸阪、三度文樂座に入座す。

五月廿四日、豊竹綾大夫（福田松藏）歿す。法名釋宗俊。通稱新町松國。一月廿四日、初世鶴澤豊造（植松廣右衛門）東京にて歿す。法名鶴譽豊禪。廣道信士、行年七十。法名鶴譽豊示。敦院得豊信士、行年六十一。

年次

劇場並に狂言

古親大夫に關する記事

淨瑠璃界一・般

七月一日初日
(十九日間)

前 日本賢女鑑 文樂座
片岡忠義之段迄

中 染模様妹婿門松 酒屋之段迄

切 關取二代鑑 秋津島内之段
角力場仕返し之段

九月五日初日
(四十七日間)

前 加賀見山舊錦繪 同座
大序より
奥庭之段

切 伊達娘戀緋鹿子 八百屋内之段
鈴ヶ森之段

十一月一日初日
(四十一日間)

前 繪本太功記 同座
大序より
尼ヶ崎之段迄

中 攝州合邦辻 住吉之段
合邦住家之段

切 明烏六花曙 山名屋之段

明治廿四年(廿四歳)
一月一日初日
(四十七日間)

菅原傳授手習鑑 同座
大序より
大切迄

役場 (初役)秋津島内之段中
三味線 鶴澤朝太郎

役場 (初役)花若丸切腹之段中
三味線 鶴澤玉助

役場 (初役)山名屋之段中
三味線 鶴澤才造
替り役 局注進之段奥
住吉之段奥

役場 (初役)安居汐待之段
三味線 鶴澤朝太郎
替り役 杖折檻之段
茶釜酒之段

吉田金之助、多爲藏と改名す。
是にて夏休。

八月十二日、三世竹本繼大夫(加藤房治郎)東京にて歿す、法名竹操院繼審道徳喜本居士、行年四十七。

七世野澤吉彌、初めて出座。

十月四日、前名初世玉助事二世鶴澤勝七(久野友太郎)山口縣彦島南風泊にて歿す、法名歸眞最勝信士、行年六十三。

是にて冬休。

竹本文字大夫の合三味線豊澤猿糸に代りて野澤吉彌勲む、猿糸は竹本七五三大夫の合三味線となる。
二月八日東京、四世鶴澤文藏(本名成川清吉)歿す、法名春光院文智日遊信士、行年六十二。

三月一日初日
(七十四日間)

假名手本忠臣藏

同
大序より
大切迄

座

五月廿五月初日
(四十四日間)

前 木下蔭狭間合戦

同
大序より
壬生村迄

座

中 近頃河原達引
御所櫻堀川夜討

同
四條河原之段
堀川之段
辨慶上使之段

九月十三日初日
(卅二日間)

前 生寫朝顔話

同
大序より
嶋田宿戎屋之段迄
二見ヶ浦之段

座

切 伊勢音頭戀寝

同
より
十人伐之段迄

十一月一日初日
(四十日間)

前 伽羅先代萩

同
大序より
御殿之段迄

座

切 櫻鐙恨蛟鞘

同
鰻谷之段
四ッ橋仕返し之段

役場 (二度目)祇園一力之段

力彌
(初役)三味線天川屋五世野澤吉兵衛

替り役

(初役)三味線天川屋五世野澤吉兵衛
殿中刃傷之段
早野勘平住家之段中
霞ヶ關之段

役場

(初役)辨慶上使之段中
三味線豊澤豊之助
來作住家之段中
壬生村之段中

替り役

役場

(初役)伊勢音頭油屋之段中
三味線鶴澤綱造
師津大夫の役場に對し中の役附きた
るはこれが最初なり

役場

(初役)提伐り之段
掛合 銀兵衛
三味線 鶴澤勇造
琴 野澤吉兵衛
(初役)鰻谷之段中
三味線 鶴澤綱造

四月廿九日、卅日ベスト消蕪に付き
休場。
竹本越路大夫途中より病氣休場、九
段目切竹本文字大夫替り役を勤め、好
評。
三月六日鶴澤紫騰(京都祇園井筒主
人)歿す。法名禮讓院仁譽義山勝翁
居士。行年五十六。

吉子野澤八助と改名(後の八世野澤
吉彌)
是にて夏休。

九月二日初世竹本綾瀬大夫(中村彦
兵衛)東京にて歿す。法名實桐院音
譽綾翁居士。行年六十九。
十月十二日五世鶴澤清七(淺田嘉七
通稱堂島)歿す。法名淺深院究意日
等信士。行年七十四。
十一月二十一日六世竹本源大夫(式
井小兵衛伊勢泊町の人)歿す。法名
聲譽和淨源信士。行年六十五。
是にて冬休。
十二月廿一日二世鶴澤清六(石井平
治郎)東京にて歿す。法名深心院圓
達日清信士。

年次

劇場並に狂言

古綴大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

明治卅五年(廿五歲)
一月一日初日
(四十一日間)

前 祇園祭禮信長記 文樂座
廊 文 章 吉田屋之段 天下茶屋迄
切 戀女房染分手綱 双六之段より 道行迄

三月一日初日
(四十一日間)

前 一谷嫩軍記 同座
中 岸姫松譽鑑 鶴ヶ岡八幡宮之段
切 桂川榎理柵 飯原兵衛屋敷之段 六角堂之段より 道行迄

四月十八日初日
(四十日間)

前 大江山酒顔童子 同座
中 新版歌祭文 座摩の前之段 野崎村之段

六月六日初日
(二十八日間)

前 夏祭浪花鑑 大序より 國七内之段迄
中 和田合戦女舞鶴 市芳丸切腹之
切 關取千兩幟 猪名川内之段 相撲場之段

役場 (初役) 双六之段
ツレ 竹本葉大夫
三味線 鶴澤吉助
ツレ 鶴澤大之助

役場 (初役) 一谷脇ケ濱之段
三味線 鶴澤綱造
當時のちやり語りの名人小清水氏へ稽古に通ひ、日々樂しく此役を勤む

役場 (初役) 平井保昌屋敷之段次
替り役 三味線 鶴澤綱造
この時 三味線 鶴澤綱造
土蜘蛛退治を津葉芽大夫、網造にては記載なし、初日のみにて番附面に

役場 (初役) 内本町道具屋之段次
三味線 鶴澤綱造
替り役 三味線 北野屋吉彌
道具屋之段切

葉大夫とは現今東京在住竹本浪花大
夫なり、此時の夕露伊左衛門吉田屋之段、越
路吉兵衛師役場實に艶麗のいひ御客も五
つとりとなる、樂屋の者共一同行聞
入る許り、又切の重なり別れの段
は我師津大夫小音なれ共うれひの評、
くきく語り方にて此二大段大々好の
其真の大役實に日々大苦しみ

鶴澤才造退座。

本興行より三味線部に半澤なるもの
を附く、鶴澤綱造半澤格となる。
小富大夫、豊竹富大夫と改名。

是にて夏休。

九月十七日初日
(卅四日間)

前 源平布引瀧 同座
大序より
四段目迄

中 傾城阿波の鳴戸 長町裏之段より
森之段迄
玉造稻荷の

切 蝶花形名歌嶋臺 小坂部館之段

十一月一日初日
(卅四日間)

前 双蝶々曲輪日記 同座
大序より
引窓迄

中 鎌倉三代記 高綱輪之段より
浦之助母閉居之段

切 心中天網嶋 紙屋内之段

明治卅六年(廿六歳)
一月一日初日

前 里見八大傳 同座
大序より
芳流閣之段迄

中 花競四季の壽 新口村之段
戀飛脚大和往來

切 加賀見山舊錦繪 廊下之段より
奥庭之段迄

三月二日初日
(五十三日間)

前 本朝廿四孝 同座
大序より
四段目迄

切 近頃河原達引 堀川之段

役場 (初役) 木曾先生館之段次 (文箱)

替り役 竹生鳥之段
替り役 實盛
音羽山之段

役場 (初役) 相撲場之段
掛合 長吉

(初役) 難波裏之段 猿糸
三味線 鶴澤綱造

鶴澤綱造病氣に付き野澤勝太郎替り
役にて勤む

役場 (初役) 神童示現之段
三味線 豊澤豊之助

(初役) 廊下之段 鶴澤龜太郎
三味線 鶴澤綱造

二月四日母セイ死去、法名金山院妙
光日榮信女、行年五十一。

役場 (初役) 長尾景勝上使之段
三味線 豊澤豊之助

本興行竹本津大夫、三味線松葉屋廣
助病氣の爲め豊澤猿糸替り役を勤む
人形部占田榮三歸座。

前興行に引續き豊澤猿糸、竹本津大
夫の三味線を勤む。

是にて冬休。

二世竹本越路大夫その師名六世竹本
春大夫、門人竹本文字大夫三世竹本
越路大夫を夫々襲名、本興行にて披
露をなす。

此時豊竹呂大夫發病引退。

高尾大夫七世豊竹時大夫襲名。

年次

劇場並に狂言

古軼大夫に關する記事

淨瑠璃界一般

五月一日初日
(七十五日間)

前 妹脊山婦女庭訓 大序より
切 壺坂靈驗記 土佐松原之段より
壺坂寺之段迄

役場 (初役) 掛乞之段
三味線 鶴澤綱造
(初役) 道行求女
三味線 豊澤竹三郎

夏 休 中

竹本津大夫一座
九州小倉、博多、直方巡業
座員 津大夫、勝鳳、猿糸、染大夫、廣
津文大夫、網造、外大夫、三味線六
名 葉芽大夫、網造、外大夫、三味線六

大夫元炭坑王貝島太助翁なりしが、
恰も疫流行し、三ヶ所共不入りな
りし爲め日々藝妓に花を附けて兩座
敷、土間共へずらりと列べたるは實
に壯觀なりし、貝島翁も大變なる出
費なりしならんもかゝる大夫元なら
ば誠に心強し

九月卅日初日
(卅五日間)

前 戀女房染分手綱 大序より
切 桂川榎理柵 六角堂之段より
道行迄

役場 (初役) 能之段脇僧
三味線 五世野澤吉兵衛
(初役) 帶屋の道行長右衛門
三味線 鶴澤綱造

三世鶴澤叶、三世鶴澤清六襲名。
豊澤仙昇入座。

十一月十一日初日
(廿六日間)

前 繪本太功記 大序より
切 傾城反魂香 土佐將監閑居之段
道行近江八景之段

役場 (初役) 鶯の森之段中(かれ柴)
三味線 鶴澤綱造

攝津大掾病氣再發して休演、竹本南
部大夫夕顔柵より引續き切迄勤む。
是にて冬休。

明治卅七年(廿七歲)
一月二日初日
(廿六日間)

前 新薄雪物語 大序より
中 碁太平記白石噺 兵衛屋敷之段
切 源平布引瀧 吉原揚屋之段
紅葉山之段迄

役場 (初役) 清水寺之段 掛合國俊
三味線 鶴澤勝鳳
(初役) 五郎正宗住家之段中
三味線 鶴澤綱造

白石噺新吉原之段攝津大掾病氣にて
休座 初日より竹本越路大夫替り役

二月五月初日
(廿四日間)

前 八陣守護城 同座
ハツ目迄

中 近頃河原達引 四條河原之段
堀川之段

切 奥州安達原 袖萩祭文之段
岩窟之段

役場 (初役)住吉濱邊之段奥
三味線 鶴澤玉助

本興行にて竹本越路大夫に初めて追
出し附く。
二月八日名人五世豊澤廣助(栗原豊
助、通稱松葉家)歿す。法名豊壽院
徳譽日廣信士、行年七十四。

三月十月初日
(廿日間)

前 伊賀越道中双六 同座
大序より
岡崎之段迄

切 勢州阿漕浦 阿漕浦之段より
鈴鹿山之段迄

役場 (初役)八幡宮之段奥
三味線 鶴澤綱造
(初役)岡崎之段中
三味線 豊澤竹三郎

新關の引抜きに日露戦争新作挿入。
吉田玉造翁病氣の爲め休座。

四月廿日初日

前 彦山權現誓助劔 同座
大序より
九ツ目迄

中 染模様妹芥門松 奥庭之段より
生玉之段迄

切 御所櫻堀川夜討 辨慶上使之段
夜討之段

役場 (初役)山口八幡宮之段奥
三味線 鶴澤鶴太郎
(初役)生玉之段
引抜き日露戦争海戦之段二枚
目
三味線 鶴澤大三郎外大勢

竹本文大夫初めて切の字を頂く。

六月七月初日
(廿六日間)

前 一谷嫩軍記 同座
大序より
陣屋之段迄

中 豊容女舞衣 酒屋之段

切 日吉丸稚櫻 駒木山岩之段
道行戀路の枝折

役場 (初役)駒木山岩之段中
三味線 鶴澤鶴太郎

是にて夏休。

